

# インプラント治療のお話 part3

## その4

### インプラント治療とは 【自分の歯がよみがえる?】

で健康な歯がよみがえったように思うかもしれませんが、乳歯だつて失った部分が決して、再生することはないのです。現在多くの大学で研究中の再生療法は、失った歯を新たに再生させる試みですが、安全、確実にしても費用が今の歯科治療のレベルで受けられるようになるのはまだまだ先の話です。ですから今のところ歯根ごと失ってしまった歯を少しでも元の歯に近い形で治療したければインプラント治療ということになります。しかし、インプラント治療は歯が元通りになる治療方法ではありません。なぜならインプラントは人工の歯根だからです。

今回からいよいよ本題のインプラント治療とはどんな治療なのか?その特徴についてお話をさせていただきます。

最初に質問です。インプラント治療をすると自分の歯がもどってくるのでしょうか?答えはノーです。入れ歯でも差し歯でも詰め物でもそうですが、一度歯を部分でも失ってしまったと、失った歯は元には戻らないのです。乳歯は、大人の歯に生え替わるの

ではなぜ人工の歯根なのにインプラントは健康な歯のように噛めるのでしょうか?この答えにたどりつくために歴史のお話をします。古くは、古代ローマ時代のあの骨に鉄製のインプラントが埋められていたという報告があります。現代の標準的なインプラントが世に出るまでには1965年まで待た

なければなりません。そして、いよいよ1965年にチタン製のインプラントが登場します。このインプラントの特徴と考え方が口腔インプラントを大きく飛躍させることになったのです。それまでのインプラントは食べてみて問題がなければ動いていても成功したと考えられていました。しかし、チタン製のインプラントは簡単に言う

と顎の骨とインプラントがくっついて動かないことが成功の条件になったのです。インプラント治療最大の特徴はインプラントと骨がくっついていくということです。これは天然歯にはない特徴です。天然歯は歯根膜という繊維で顎の骨の中に強固

につるされているのですが、インプラントはこの歯根膜がなく直接骨と接触し全く動かないのです。しかもネジのように単に顎の骨の中に埋まついて動かないのではなく、くっついているのです。ですから食事の時に噛んでもインプラントに支えられた人工の歯は、動くことなく食べ物をかみ切ったり、すりつぶしたり、砕いたりしておいしい食事ができるのです。次回はずいぶんインプラントが骨とくっつくのかをお話します。



#### 伊藤創造 (いとうそうぞう)

若手医科大学歯学部卒業、大学院でインプラントに関する論文で博士号を取得。その後、若手医科大学歯科補綴学第二講義の講師として臨床等で活躍。1991年にトロント大学に留学。2014年におゆみ野インプラントセンターを開設。

若手医科大学臨床教授、日本補綴歯科学会指導医、日本顎顔面補綴学会認定医、日本歯科審美学会認定医、国際口腔インプラント協会(IDIA)-Mastership。

おゆみ野総合歯科クリニック  
☎043-300-3939